

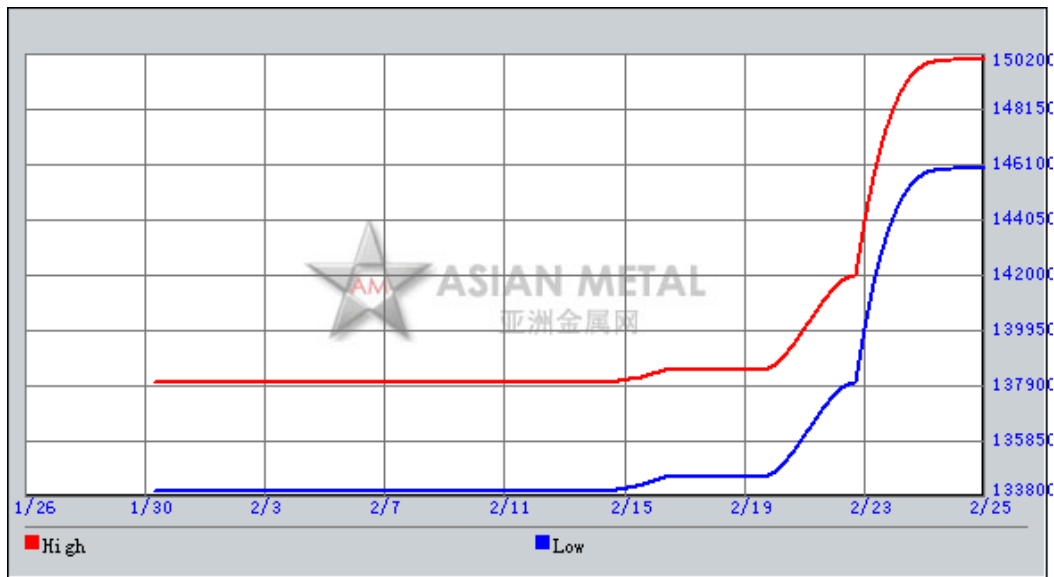
平成 20 年 2 月 26 日

雪が降ったらタングステンが高騰する

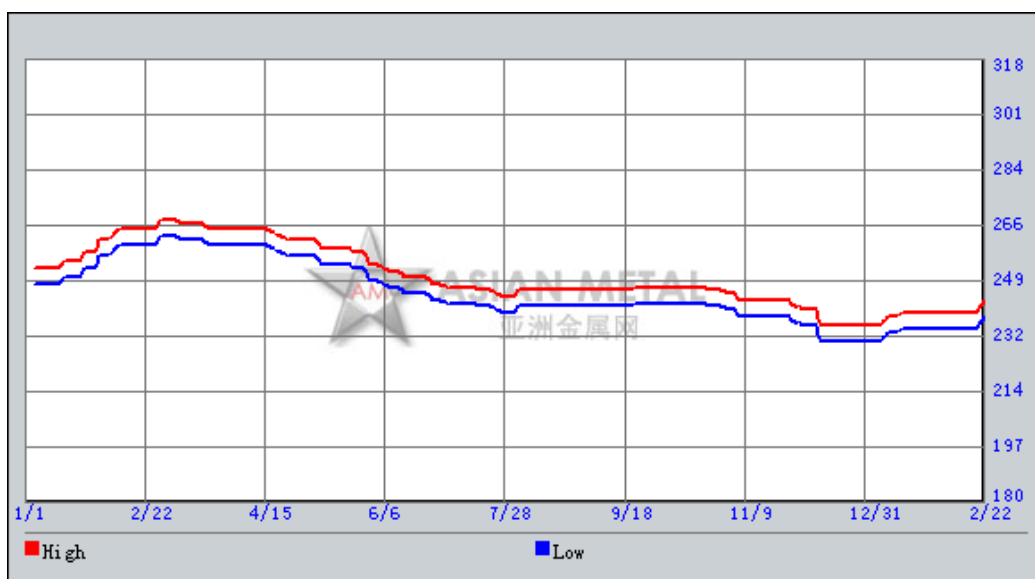
有限会社 UMC

中村 創一郎

『風が吹いたら桶屋が儲かる』といえば日本の落語であるが、中国でいえば『雪が降ったらタングステンが高騰する』といったところか。



上記は中国の A P T (Ammonium tungstate para) の 2008 年 2 月の中国国内取引価格の推移である。A P T はタングステン製鋼を作る主原料となるため、タングステン価格の指標として用いられる。ご覧になってわかるとおり、春節明けの 19 日を境に高騰している。



上記グラフは 2007 年の APT 国際価格の推移であるが、非常に安定した価格推移であった。この春節明け 10 日間で暴騰した中国国内価格を受け、国際価格も大きく揺れ動くことが予測される。

レアメタル高騰理由は以下の 4 点に集約される。

- 1) 偏在性による供給障害
- 2) 需要の伸び（欧米ではなく新興国家）
- 3) 国家の資源政策と貿易政策（EL 制度、輸出税など）
- 4) 投機と価格操作

今回のタングステン高騰はこの中のどれに当てはまるかという点、まず『偏在性による供給障害』が当てはまる。2008 年 2 月初め、中国を襲った大雪は 50 年ぶりの大雪であった。春節前ということもあり、田舎に帰る 2 億人の人々を足止めさせたこの大雪は、湖南・江西等のタングステン鉱山の採掘停止に追い込んだ。3 月中旬から下旬にかけて採掘は開始される見込みだが、同周辺地域にある精錬工場も電力不足が原因で生産が止まっている。

次に『国家の資源政策と貿易政策（EL 制度、輸出税など）』が追い打ちをかけた。本年になり中国政府は矢次早に政策をだした。

- 1) 輸出税の賦課（APT/AMT、W 酸、酸化 W : 10%, W 粉、WC : 5%, W 鉄 : 20%）
- 2) E/L 総量の減少（第一回 E/L 枠総量は去年より 15.7%減少）
- 3) 中国政府に依る採掘総量のコントロール、資源税の大幅増加

これ以外に或る鉱山所在地の地方政府は採掘作業をコントロールしている。産出量を減らし、価格を上げる為である。

更に『投機と価格操作』がとどめを刺し、タングステン国際価格の大高騰が始まろうとしている。中国の金余り状況が続いており、中国の資本家達は投資先を探している。投資先として面白いのがタングステンであり既に買占めが進んでいる。この状況に目をつけた貿易業者もこの波に乗り、264 ドル以上でなければ輸出しないとしている。

タングステン埋蔵量が中国に偏っているため、中国政府はタングステンの保護に力をいれている。大げさな言い方をすれば宝物として扱っており、この宝物の価値を揚げるためには国家政策も辞さない構えである。

冒頭で述べた『雪が降ったらタングステンが高騰する』は、大雪の供給障害をチャンスとし、ただでは転ばずにタングステン価値を大幅に上げる中国のしたたかさを表現した言葉である。